八日夕刊
磐城新聞
休刊 大祭第一第三日曜
定價 壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢
廣告料二行五十錢（指定廿錢増）
發行兼編輯印刷人 遠沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五六四番

高月集 昭和戊辰の巻（下）

同 扇

贈りくれし人空しうして扇かな　閑月
短冊を風に伏せたる扇かな　天仙
子に禮儀教へて渡す扇かな　秋月
おもむろに語り出でたる扇かな　一夢
十三にして花の袂や舞あふぎ　松堂
端居してあふぎを使ふ女かな　霧笛
人垣の御輿待ち居るあふぎかな　天仙
舞ひ了へて客のあふぎを使ひけり　一夢
忘らるゝせんすの多き峠茶屋　揚臺
山清水石にあふぎの忘れあり　松堂
取次を待つ間をあふぐあふぎかな　牛城
登山記念の印數多きあふぎかな　雪村
破れあふぎされど故人が形見かな　閑月
講釋師咳一咳して張あふぎ　松堂
船遊艶にあふぎをかざりかな　霧笛
小さくなりぬあふぎ忘てやりし舟　背山
夏場所やあふぎひらめく國技舘　耕影
ロハ臺にあふぎかざして高鼾　背山
落書に黒くなりたるあふぎかな　雪村
あて人の斜にかまへたるあふぎかな　雪村

同 蟬

蟬しぐれ七つ下りの日ざしかな　閑月
赤松の脂流れげ蟬時雨　天仙
尿してスイと飛び去る蟬のこゑ　雪村
下町の絃歌山手の蟬の聲　耕影
みちのくの古りし祠や蟬時雨　霧笛
蟬啼の徒跣あぶなき端山かな　一夢
蟬の聲ゑかゆ腹にひゞきけり　天仙
蟬々蟬きほふ榎と槐かな　閑月
手のせみを鳴かせて來るぞ木の間より　背山
啞せみの杭木にとまる暑さかな　霧笛
せみたくや千疊敷の大榕　耕影
叱る兒や袂のせみのほき出づる　雪村
せみやんで庵主の夢の破れけり　一夢
せみすゞし榻下に居眠るつなぎ馬　天仙
せみの里山門朽ちて巨刹あり　耕影
力せみの聲もたゆみし暑さかな　松堂
淋雨のせみにはれ行くあつさかな　揚臺
なくせみに棒振る次郎太郎かな　秋月
せみ時雨昼寢の夢さめにけり　松堂

次回例會九月廿九日（舊八月十五日）
題 イトヾ、コホロギ 秋の川、月、案山子、花野

※明日の吉凶※
曆 七 九 二月 新月 舊六 廿九

一白 天の利あれど人の和に欠くる所あり注意△二黒 暗雲は自然と身邊を去つて快晴となるべし△三碧 無理に發展せんとする時は却て破敗すべし△四緑 老廢萎微の風に捕はれぬ樣に自奮すべき日△五黄 小掬ひによろこびを求めず末の入漁を心掛くべし△六白 ばかり大きくなりて常務の捗らざる日△七赤 他人着手しこれまで滯りし事を解決すべし△八白 大に動せよ、自由天地に出でられる日△九紫 外にのつて鼻を高ふすれば内になやみを増す

狂つた都會
京 不二之介

××きりふだ××
俺は
影だけしか歩かない人間
俺は
夜だけしか唄はない人間
——忘れつちまへ
唇のたゞれた古い女の事なんか
——考へるな
なんでもケチなことは
明日にするさ
まだ 俺の手には
スペードの切り札がある
俺は
人間なみにバクチをつゞけてゆくのだ……
××狂つた都會××
二十世紀の泡に醉つて
人間が逆立ちしてゐる
狂つた都會、
俺は
すつ裸で
明日を耕しに出かける
××出帆××
八月だと云ふのに
羅針盤が凍りついてゐる
ボロ船の出帆……
オヤ！
不思議なこつた船長は
眠つてゐる……
白い蛾が
圓い窓枠に動かない
別離テープが
古い港に切られて
十三ケ月——
動かないボロ船の出帆

雜談

幕末秘帖 狂怒乱心 (36)
渡邊默禪作　宮野歌春畫

「爸、私に一人の娘が居やアがるんだ、其女のお前梅（？）野郎と變な譯になりやがつてな」
「ね、變な譯？出來たな」
與中は驚いたやうに叫ぶ
「出來たか、出來ねねが其處までは親馬鹿チャンリンの氣が付かねねが、何でも夫婦になりてえと言ひやがる、から、ウン、それも可だらうてんで梅當つて見るとまんざら可厭でも無ささうな口吻なんだ」
「ねへゝ畜生奴、相惚れのコン／＼痴氣と來てるせ」
與中は手を拍つた、今の御愁傷は何處へやら
「そこで何んだ、當人同志が好いといふものを親が恐圖る筋も無ねから、追つけ閒を見て、祝言をさせるまでの段取になつてゐたんだがその聲が這麼事になつたと聞いたら娘は定めし……
と驚摑にした手拭で眼をこすつて
「な、な、泣なアがるだらう、若しヒヨッと取詰めた氣になつて、み、み、身投でもさにようもんなら嘆きの上の嘆きだ、ア、詰らねね／＼」と涙聲だ
「へエー、そんなのがあるかい、まア」
と與中は意外の感がした
雪江の胸に秘した思、それとは言はねど略推せられる其人に向つて今日の始末を告げたなら歎も何樣な氣がするであらう、殉してそういふ許嫁のある事を——と其時の雪江の心になつて考へて見るとそゞろに同情に堪へぬのである。
二人は申し合せたかの如、その背に戀の重荷をかついでゐた。
一ツは可愛い娘、一つは大事な主人からの委托品、その郵便物が俄かに配達先を失つて鉢合せをした。そして涙の附箋がついて途中にまごまごしてゐる
音五郎は與中と別れて、その夕景に自分の住居へ戻つて來た。家は火消屋敷から五町と隔らぬ田町二丁目の裏通り愛敬稲荷前に在るので、日々此處から屋敷へ通ふのだ。
「たい、今歸つたよ」
がらりと格子戸をあけて
「ばかに暗いぢやねえか、早く燈火を點けな」
と手ぬぐを取つてばた／＼と股引をはたく。
「たや、お歸んなさい」
奥から愛らしい聲が聞ねた
「爺さん、今日はいつもより早いぢやアありませんか
ハイ、今點けますよ、何ねた裁縫に身を入れてたもんだから、日が暮れたのも忘れつちまつて、オホ、、、ほんとに闇くなつてるわね」と呟くやう。
「やがてヒウチをかち／＼行燈に火を移して勝手の六疊に持つて來た。其の女は色の白い丸顔の形好の佳い鼻に小さな只濃い地藏眉の下に、くるりとした眼つきの愛らしい、鳥の子餅の左の頬にちよいと泣黒子のある十八九の娘である。
毛癖のない黒髪をゆひわたに結つて、淺黄の鹿子絞りをかけ、つげの笹形の櫛を如何なまじないか三の糸を半掛に挿込んだかんざしをのしらひ、襟のかゝつた銘仙物に更紗縮緬のきえかけ肩から紅襷をふはりと流ししかる品に乏しいといふ非難は免れぬが其の代り人を引附ける愛嬌は憎いほどある。
「何、裁縫をしてゐた、珍らしいぢやねえか今まで一向のねんねで遊ぶ方にばかり身を入れてゐたのが、急に大人になりやアがつて……ハ……女奴、内儀さんになる準備を爲てやがるんだなイヤハヤ油斷がならねえ」
と音はからかひながら
「アゝ草臥れつちまつた。ヨイトコナ」
槻の如輪木の長火鉢の側へ動乎とあぐらをかいた

縣社子鍬倉神社例祭に付十日臨時休業仕候
平銀行
磐越銀行
磐城實業銀行
七十七銀行平支店
百七銀行平支店
農工銀行平支店

內科、小兒科（院長毎日診療）
院長 醫學博士 難波睦
內科部長 栗野省三
外科一般花柳病科
外科部長 醫學士 氏家憲介
産婦人科
産婦人科部長醫學士 五十嵐雄二
藥局
藥局長 吉本孝平
本院主事 賀澤忠治
電話七二番
獨逸シーメンス、ユニバーサル、ヘリオドル
最新 X光線装置
五月十日ヨリ診療開始
主任 醫學博士 難波睦
入院自炊ノ便アリ
看護婦募集
磐城 共濟病院 平町 電話六四一番

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋 ㊇ 釜屋商店
諸橋久太郎
電話 九番 一三九番
振替貯口金座東京一〇九五六番
確實敏捷は㊇の生命なり

內科、小兒科
花柳病科
入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町 電話五〇七番

入院隨意（自炊の便あり）
X光線
外科專門
平町南町
上田外科醫院
電話一二九

吉田眼科醫院

スター好 中形
粋な手中
着尺モスリン 本場カャ
平 龜田屋 電五七

平町田町
赤心堂病院
電話四七五番

平町田町
高久病院
電話五一三番

夜間診療
胃腸 內科 十二指腸虫病 專門 內科部
梅毒 淋病 婦人病 皮膚病 專門 外科部
平南町 松村病院 電話七〇一

開店御披露
氣分好い食堂ができました、暑い夏の夜御散策旁々是非一度御來店の上御批評を
經營は大塚肉店故原料豊富、是非一度御試食の程を
女給數名入用
カフエー幸樂
平町六丁目 電五三九番

宮內省御用達
ヒゲタ醬油
九升樽詰 二リットル壜詰
銚子醬油株式會社
特約店 廣瀬支店
平町田町 電話五四番

青麻山 中風靈藥
定價一週分九〇 二週分一、七〇 三週分二、五〇
動脈硬化症、腦溢血、半身不隨、言語難澁、其の他中風より起れる諸症に偉効を奏す
是非御試用を勸む
代理店 平町五丁目角 山野邊藥局

貸地廣告
平町郡役所より税務署附近の新開地に一千餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり載けば社員が御伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話 六〇三番 五四一番

醫院開始
內臓外科
外科一般
花柳病科
平町田町大通り
安齋外科醫院
電話四三六番

晩秋蠶に力を入れ 汗だくの養蠶家
蠶種も沸底する騒ぎ 石城郡下の蠶況

石城地方一般養蠶家は今春蠶繭が意外の低落に加へて天候等の關係から違蠶も出來

近年にない程の四苦八苦の狀態にあるがこれがため一般養蠶家は夏秋蠶及び晩秋蠶に於て春繭の低落をとりかへすべく夏秋蠶の掃立を增すべくいづれも意氣込んで居た處桑園の大部分は芯止玉蠅の被害をうけて殆ど掃立不能に陷ります／＼養蠶家は悲境に陷つたが晩秋蠶に至り天候も恢復しまた玉蠅の被害を受けた桑葉もその伸張よろしくいづれも晩秋蠶に力を入れためめに掃立

增加を見たがまた天候の關係から稚蠶當時は順調であつたものか昨今三眠に入り經過不良濃蠶等も出來また／＼悲觀されるに至つたが、それがため從來あまり掃立られなかつた晩々秋蠶で春夏秋蠶を挽回すべく養蠶家はいづれも晩々秋蠶に力を注ぎために蠶種が沸底し春蠶に於て過剩な來し投賣同樣であつた蠶種も昨今では羽が

生いて飛ぶやうに賣る有樣であり繭價も尻高の傾向にあるので養蠶家の意氣込みは素晴らしいものがある

打方山墜道
改修工事入札

既報常磐線湯本泉驛間打方山トンネルに改修工事請負入札は去る六日水戶保線事務所に於て執行したが一萬三千圓で久原工業會社に落札した着工は來る二十日頃であるが工中は單線運轉であつて相當難工事であると

愈々明後日に迫る 縣社の大祭禮
各種の催しに賑ふ 平町空前の賑ひ

平町の鎭守縣社子鍬倉神社は社殿改營の爲大祭を延期されてゐたが拜殿其他八分通りの進工を告げたので明九日、十日の兩日盛典を執行することに決し社務所には勿論各町內に街頭の裝飾祭等禮の準備に忙殺されてるが、九日大祭執行の翌十日に行はれる神輿の渡御は全町青年各分團が團旗捧持し當番の鎌田青年分團が神輿の奉仕をなす筈で、五色町藝妓の粒ねりが古式の手古舞姿で露拂ひに立つ由である其向ふを張つて新田町藝妓が同じ舞姿に稚兒警固を供奉する評判なか／＼の大當りで前景氣頗る盛んであり九日夜の屋外活動寫眞並に境內大やぐらの上に於ける甚句踊及び兩晝夜に亙つて打揚げる數百發の煙花其他數々の餘興が非常の人氣であるから天候がよかつたなら大した賑はひであらう

相續稅の 申告が減る
當局で大困り

平稅務署では過般來家督並に遺產相續稅の調査を行つてゐるが八月末現在の家督相續をなしたものは四千六百件稅額四千八百一圓中課稅したもの五十二件遺產相續稅額千三百九圓相續件數千六百四十件縣稅件數十八件で前年に比して何れも減少を見てゐるが不景氣が崇つて申告をなすものが非常に少く整理上困難を來してゐるので同署では徹底的無申告者を調べあげ縣稅を課す由

土木委員會
平町役場に開く

平町土木委員會は七日午前十時から開會し東部電力會社電柱建設の道路專有、南町裏工業商會の軌道敷設契約の件其他について協議し何れも原案通り可決した

松ヶ岡公園下に 眞二つの死体
勞働者体の廿五六歲 身元一切不明

平驛西端松ヶ岡第三公園下內鄕村大字御臺境地內の常磐線下り本線に胴体を眞二つに轢斷頭部を粉碎された勞働者体の男轢死体があるのを今八日午前七時頃通行人が發見平署に屆出たので齊藤部長出張檢視を遂げたが所持品遺留品なく推定年齡廿四五才の勞働者であるが以外は身元一切不明一先死体は內鄕村役場に引渡し假埋葬に附した上身元調査を開始したが自殺か過失死であるかも判明しない

臨時列車運轉

石城郡赤井村赤井岳藥師の緣日は來る十三、四の兩日行はれるが水戶運輸事務所では平赤井間の臨時列車を運轉するはず

鰹節削り 値下げ騷ぎ
四倉署も警戒

石城郡各濱に於ける鰹の漁獲されたものは一部分を鮮魚の儘地方に輸送し他は全部鰹節に製造されつゝあるが鰹漁が豐漁と云ふ程でなかつたにも拘らず鰹節の市價が下落して來たので四倉町の製造家は協議の上鰹節削りの職工賃を値下することに大体決定を見たが現在の工賃は一日二圓三十錢で値上案は二圓とするにあるが之に對して職工側では夏期中の仕事であるからといふのでこれが値下に反對してゐるが目下鰹節補造時期であるため結局兩者が打合がつくものと見られてゐるものゝ四倉署では紛爭に對する警戒をなしつゝある

榮樂と左近
今夜平劇場で

東都浪界の大家宮川左近、松風軒榮樂の二師は空前絕後の大合同を試み今八日（一日に限り）平劇場に於て競演する事となつたが人氣湧くが如き覇氣滿々たる鬪士の競演は愛浪家の血を湧かしてゐるから大入滿員を見るであらう

特建に編入すべく 山門と社殿調査
浮び出る甚五郎作さ 玉川村の住吉神社

石城郡玉川村大字住吉字新町鎭靈縣社住吉神社々殿及同郡大野村大字玉山字牧の下専日寺の山門は今回特別保護建造物に指定編入すべく目下內務省犬建係塚本慶尙技師及本縣囑託八代義定兩氏の手により一昨六日來實地の調査中で指定可能性分なるものありと認められてゐるが同所の由緒は次の如くである

（住吉神社）底筒男命中筒男命表筒男命を合祀し延喜式神名帳に列する所謂磐城七座の一にして西國の住の江の三所神を稱せしならんか、何の時なりしや詳にせず或は云ふ景行天皇の朝武內宿彌東北巡視の時海上暴風雨に遭ひ住吉の神を祀つて無事なるを得たり依て今の磯山に神離をたて勸請せしに始まると後康平四年源賴義社殿を造營し鶴丸の寶劍を獻す境內千百九十二坪境內に生木の橋星見の井かくしなど等の各所あり、正面の賽場を馬場と稱し幅五間長さ二十五間ばかり、神殿は方三間餘寬永十八年內藤政晴の改造に係り彫刻精美を盡せり、祭禮は毎年十月十三日とし流鏑馬の神事勅使參向の式等あり地方のもの之を鏡器祭りと云ふ、監しこの日概ね曇天ならばなり什寶圓鏡、太刀、遍額、馬具、御戶帳金蘭兩龍の棟札

（惠日寺）甚光山昆盧遮那院と號し眞言宗山城の國醍醐報恩院を本山とす寺域九百九十四坪弘仁年中（一、四一〇——一一、四八三）僧德一開基創建（元享釋書）爾來漸く衰頹せしを永德年中（一三〇四——一二、〇四三）僧甚慶豐後の國より來り更に之を中興す（岡本談所緣起）毘盧舍那を本尊とし並に聖德太子像を安置す、其後平將門の三女髮を削りて尼となり如藏と號し地藏の木像を背負ひ來り庵室を結び住す（元亨釋書前太平記）如藏後に會津に移るとも云ふ又八十有餘年にして此所に終るとも云ふその影像寺に存せり、堂宇には本堂庫裡經藏等ありて其の山門は左甚五郎の建つる處と云ひ傳へ彫刻の精美稀に見る處なり、名所略記に御朱印二十石門末四十五ヶ寺とあり

溜池で溺死
東市君の行衛

昨報四倉町字新町生れ當時內鄕村大字綴字一の坪居住笠原新作長男東市（七）が六日午後一時頃附近の兒童數名と共に同村地內の溜池に水遊に行つた儘歸宅しないので大騷ぎとなつたが溺死した形跡があるので青年團其の他出動し同夜直ちに溜池の排水に努め死体搜査を開始した結果昨七日午後二時頃水底に溺死してゐた東市の死体を發見平署七海部長檢視の上で死体は家人に引渡した

平町役場の 職務怠慢
中村町で憤る

中村町新町八卷はつは昨年平町に居住中町稅一圓三十錢を未納のまゝ中村町に轉居したので平町では中村町にこれが徴收方を依賴して來たので去る一日右稅金を徴收送附せるに夫到着だとて再度催促したので中村町では小替爲券の再交附をうけ送達せるに以前の金券を發見したからとて六日後送分を返還し來つたので中村町では平町の餘りに職務怠慢にあきれ再び逆送したが平町の大失態であると

不敬事件の 公判
廿六日に開廷

石城郡平町四丁目瀧川幸一郎（三七）及び妻ふく兩名に係る天理敎研究所不敬事件公判は來る廿六日午前九時から福島地方裁判所平支部法廷で千葉裁判長係で開廷のはず

喧嘩の眞最中に 流酸を浴せる
珍らしい相手の犯人 平署に捕はる

平町字堤の內淺野三郞（三七）（假名）は舊盆十六日午前三時頃鎌田遊廓附近で平町字胡摩澤蛭田作義（三六）と些細の事から喧嘩を始め遂には所持してゐた工業用の劇藥流酸瓶を作義の頭部に叩き付けたので作義は全身に流酸を浴びて大火傷を負つた事件は其の後平署で犯人三郞の行方嚴探中昨七日夜平町字七丁目カフエー幸樂に飮酒中密行中の半澤刑事が發見本署に引致し上目下嚴重取調中である

鮫川の 鮭漁
着々準備を 組合が

鮫川に於ける鮭漁期は返つきつゝありて鮫川鮭蕃殖組合にては諸般の設備に忙殺されてゐるが同山田村孵化場主任高木老技手の語る處によれば

本年は廿日頃よりは初漁があり天候及氣溫上から見れば前年よりも豐漁であらう兎に角例年彼岸となれば姿を見せるもので各漁夫は汗を握つて待つて居る年々孵化場にて放流する鮭は五十萬尾で上流し捕獲されるは一千尾內外である

夫婦の坑夫 坑內で慘死
落盤の下敷き

湯本町入山八仙長屋居住宮城縣刈田郡丹田村大字曲竹村日下榮次郞（三八）同人妻フミヨ（三七）の兩名は昨七日正午頃入山第四坂二電卸附近に入坑 業に從事中俄然大音響と共に落盤兩名共下敷となり榮次郞は頭部粉碎して即死フミは肋骨三本を骨折瀕死の重傷を負つたのを附近に作業中の坑夫が發見フミは直ちに入山病院に舁ぎ込み應急加療中だが生命は危篤である榮次郞の死体は平署七海部長出張檢視の上入山會社に引渡した

平消防組で 防火設備
御大典記念に

平町消防組では御大典記念事業につき目下夫れ／＼計劃中であるが大体意見の一致を見て居るのは引込水道を有する家庭にはゴム管を備へ付けしめ同時に共同栓に對しては同樣の設備を施し火災消火の効力を大ならしむるべく各種資料を蒐集調査を幹部間に於て行つて居るが、近く平署と協議の上具体的實行方法の打合せをなすと

濱三郡の漁獲高
金額百二萬八百餘圓 豐漁で金は減る

濱三郡本年度第二回漁業期即ち五月から七月までの三ヶ月間の漁獲高は百八十一萬一千五百二十七貫でその價格百二萬八百八十六圓前年同期に比して數量にたいて二十二萬二千四百七十二貫を增加してゐるも價格にたいては一萬二千八百五圓を減額したこれは要するに價格が安値であつた爲めであるが各郡別は次ぎの如くである

石城郡百六十二萬四千百卅貫八十五萬六千四百八十四圓双葉郡十四萬六千六百七十八貫十萬〇五千百五十四圓相馬郡四萬〇七百十九貫五萬六千二百四十六圓

鮫川で清遊

石城郡及茨城縣多賀郡下賣炭商の聯合せる常磐石炭組合は明日曜日秋季例會として鮫川船中に開催し船遊覽其他一日の清遊を試みると

工費三十萬圓で 鎌田鐵橋改修
大型機關車の通行危險 當局設計を急ぐ

常磐線平草野驛間夏井鐵橋は從來九千九百號の大型機關車の運轉には危險を感じて居り、これが改修の必要に迫られて居たが工費の關係から延引されてゐたが過般東京鐵道局廣瀨工務係長大分工務課長來平詳細調査をなした結果いよ／＼大改修工事をなすことになり本省に於て設計中であるが工費は三十餘萬圓の大工擧で設計出來次第直に着工する

平町を徘徊の 不審男
平署で取調中

町字南町通を昨七日夜徘徊してゐる擧動不審な勞働者体の男があるのを密行中の平署狩野刑事が發見本署に引致取調た處ろ此奴は當時住所不定無職山形縣西村山郡西山郡大字岩根生れ前科四犯齋藤金重（四〇）で去る四月福島刑務所を出獄後各地を放浪數日前平町に流れ込んで來た者であるを自白したが代約百圓程度の金時計一個衣類數點等身分不相應な所持品があるので各地を荒し廻つて來たものではないかと目下嚴重取調中である

紅燈街（植田たより）

豐かな肉体美 所有者としてこほるゝ愛嬌座敷を面白く愉快に遊せるはみどりのみい子であると馬鹿に力コブを入れる人がある、高萩、板橋かならゐたへ……かり鳴き渡る宵暗に思沈む事もあろう！茨城政界に知られた小峰×××の少なからぬ寵み集め滿壽屋、世々木と而白に浮身をやつした新油屋の峰香、其た名前も「小峰」から次いで峰香とやら、勝代音丸と對抗する姐さんなそうな。

明日休刊

舊名偉人傳（八）
石城 時の幕府に仕事した 大僧正 隆基の生立

△隆　基

諱は隆基字は芳仁生玉隱士と號す、赤津無學助氏の第三子にして天保二年十一月十六日菊田郡後田村に生る天禀聰明にして出塵の志り、九才の時邑の寶德寺胎中上人に隨つて薙染す、後中間寺隆珊和尙の室に入り十六才にして智山に登り龍曉法印に侍し、學敎の奧を叩き武陽荏原郡大井村來福に任して珊公を補佐し、明治十六年珊公、讓を受けて圓寺に任し敎風を發揚することゝ七年而して席を法弟隆健に附し自ら生玉庵に退く、此の歲快猛大敎正に西院の秘を探り明治十四年雲照律師に丹頸戒を受け十五年權少敎正に進み、龍顔に咫尺するの榮を得たり、十七年宥性大僧正より本願流大會を傳へ十九年一宗の開かれ本派公秣の議否を決せらるゝや師巨擘出し範異師をして之れが再議を勸かさしめ遂に其の功を奏せしむ、十二月定額位に登さ、二十四年智山派を復興し、二十九年八月芳勝僧正に讓りて生玉庵に再び退休す三十年九月特例を以て大僧正に補せられ十月三日示寂す享年六十七、師常に寡言、庇飾を嫌へ且つ僧家の濫行を嘆じて雲照律師を敬慕す又た慈善を好み時々祕密儀等を大敎院に納れ眞言開庫集等を上程す、又資金を出荷僧に贈るを以て謝狀函に充つ曾つて人に語りて曰く「僧家財物を貯ふるを禁す然れども未世財にあらざれば事を辯するに由なし、我れ財を貯ふる所以のもの只是れ祖山の興隆するにあり今や餘名幾もなし、亦た貯金せず」と以てその人となるを知るべし

△小山田勝任

平藩士にして三才の時父を喪ひ母に養育せらる、長じて藩儒岬林に就きて學び十四才にして藩の大廣間番に擧げらる、資性公正機敏、公事にあらざれば權門には出入せず、學を廃して能く勵す、十八歲の時隣水戸家に內亂ありて命を受けて平藩より警戒の爲め從軍するもの名、氏は身長の足らざるの故を以て之れに漏れるを遺憾とし百方藩老に請ふて止まず、大目付小川彌五右エ門之れを慰諭し曰く「餘も亦た幼にして不幸片眼を失ふ、故に今回の擧にあづかるを得ず、徒に留守役となり遙に輜重軍需の辨を勤むるのみ、思ふに當今陣頭格闘の壯丁に乏しからずして而も帷幕の士の得がたきは實に遺憾なり、子夫れ退て徐ろに修養する所あれ」と氏よつ感ずる所ありその九月笈を負ひて江戶に出てて兵學を藩儒衡平に受け、又聖堂に入り鹽谷宕陰、吉野金陵、松崎慊堂等の門に出入し、苦學年餘・二十一才の時業成りて歸藩す家道もとより豐かならざれば僅かに母堂及姉が紡糸針巧の餘資とその親戚河端道國民の補助によりてその志望を達するを得たりといふ、翌年戊辰の變亂起るや擢でられて藩の監察となりて軍政に參與し軍機劃策徃々老成を壓し、屢々藩公より機密の使命を受け常にその任命を完了せり、七月十三日平城陷落の際その防禦要衝新屋敷口を守りて流彈に毙る年二十二才。

刀劍陳列即賣會

□日時　九月九日（日曜日）　午前九時ヨリ午後六時マデ

□場所　藤田裁縫女學校樓上

名刀新古百數十本を陳列
時價に比較し最低の正札にて即賣
無料鑑定及び交換の需めに應ず

◎◎◎◎入場無料……來觀歡迎◎◎◎◎

主催　聖山堂　東京芝區巴町　伊波幸次郎

後援　磐城新聞社

讀者諸君へ

明十日定期發行の處印刷工場の都合により二三日相遲れ候に付き御諒承相願ふと同時に記事の內容をば括目して待たれたし

磐城之實業社